ASICS CSR REPORT 2012

sound mind sound body sound world

株式会社アシックス

アシックススピリットと企業理念体系

企業精神　ASICS SPIRIT

創業の精神を継承する「アシックススピリット」は、「フィロソフィー」、「ビジョン」、「バリュー」で構成されています。

Philosophy フィロソフィー

創業哲学

「健全な身体に健全な精神があれかし
ー“Anima Sana In Corpore Sano”」

アシックスの理念

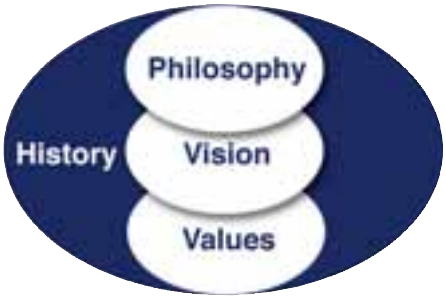
1. スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する
2. 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
3. 健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
4. 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

Vision ビジョン

Create Quality Lifestyle through Intelligent Sport Technology
スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する

Values バリュー

スポーツマン精神
第１条：スポーツマンはルールを守る
第２条：スポーツマンはフェアプレーの精神に徹する
第３条：スポーツマンは絶えずベストを尽くす
第４条：スポーツマンはチームの勝利のために闘う
第５条：スポーツマンは能力を高めるために常に鍛錬する
第６条：スポーツマンは、「ころんだら、起きればよい。
失敗しても成功するまでやればよい。」



企業理念体系

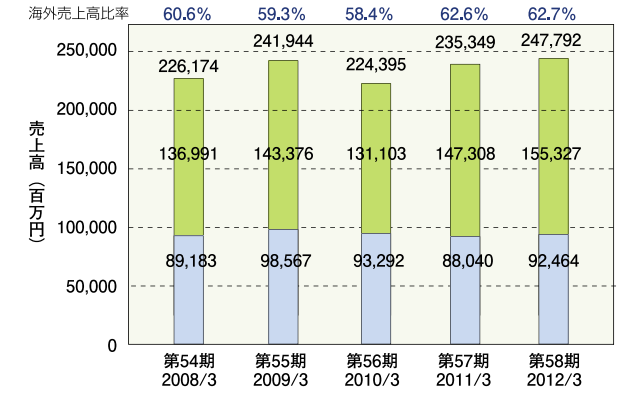
アシックスグループは、「アシックススピリット」に基づいて「アシックスCSR方針」を定め、持続的発展が可能な社会の実現を目指しています。

アシックスグループの事業概要

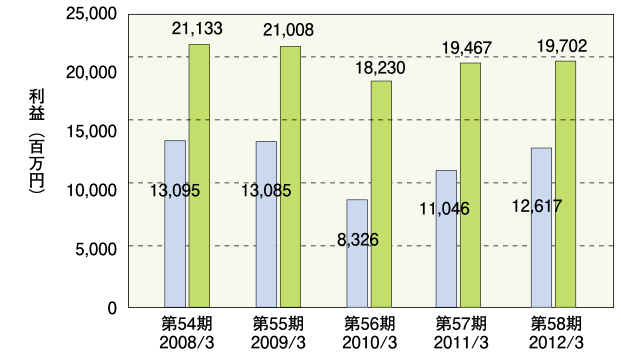
アシックスグループは、2012年３月末現在、株式会社アシックスと国内外の子会社合わせて55社、5,906人で構成されており、「スポーツシューズ類」、「スポーツウエア類」、「スポーツ用具類」の３つの分野でグローバルな事業活動を行っています。

経営・財務指標

国内海外売上高推移



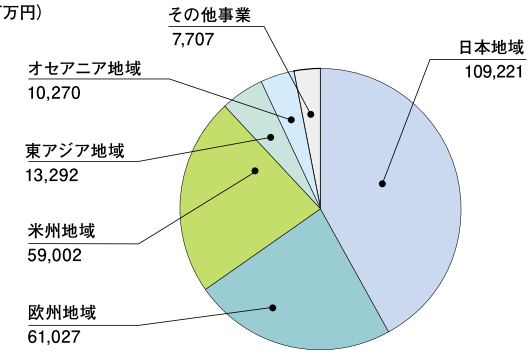
利益推移



報告セグメント別売上高

第58期　2012/3

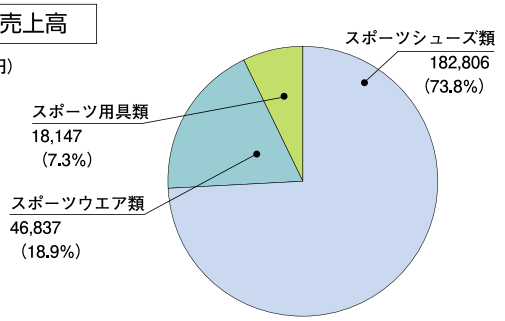
（単位：百万円）



※報告セグメント別売上高は、各地域及びホグロフスの売上高を表しています

分類別売上高

（単位：百万円）



2012年版の編集方針

2012年版は、昨年度に採用したISO26000の7つの中核課題に基づく紙面構成をアシックスの4つの理念に基づくものに変更しました。限られた紙面の中でより分かりやすくすることを目的としたもので、本CSRレポート内の8ページにその対応を記載しています。

アシックスグループは、重要課題と社会的要請の高い項目について誠実に報告するように努めており、本CSRレポートのほか「Annual Report」、「有価証券報告書」を報告メディアとして利用しています。

対象範囲

アシックスグループの取り組みを紹介しています。

対象期間

2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）

前回発行日

2011年6月24日（年１回発行）

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第3版）」

※GRI（グローバル・レポーティング・イニシアチブ）：オランダに本部を置くNGO。国連環境計画（UNEP）の公認協力機関。

アシックスホームページ

日　本　http://www.asics.co.jp/

グローバル http://www.asics.com/top

会 社 概 要（2012年3月31日現在）

会社名　株式会社アシックス

資本金　239億72百万円

従業員　1,464人（連結:5,906人）

国内従業員 3,593人　海外従業員 2,313人

[主な事業所]

本社（神戸市）※

東京支社（東京都中央区）・関西支社（兵庫県尼崎市）

スポーツ工学研究所（神戸市）※　広州事務所（中国）

[株式会社アシックスと国内外の子会社]

国内:21社　海外:34社

（アメリカ・ヨーロッパ※・オーストラリア・韓国・台湾・中国ほか）

※の事業所はISO14001認証を取得しています。

目　次

アシックススピリットと企業理念体系

トップコミットメント 03

特集1 フットウエア事業の環境負荷低減に向けて 05

特集2 東北復興のための継続的支援活動 07

アシックスCSR方針 08

製品とサービス 09

環境と社会貢献 13

公正な事業と利益の還元 21

ガバナンスと従業員 27

ＧＲＩガイドライン2006標準開示対照表 33

アシックスグループの海外子会社 34

担当役員から 34

トップコミットメント

代表取締役社長 CEO

尾山 基

人々の幸せと、健やかな世界のために

CSR経営を基本姿勢に

2011年度、アシックスは、世界中のグループ企業全体でお客様起点の企業活動をすることを基本方針に置いた中期経営戦略「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」をスタートさせました。

AGP2015は、グローバルで取り組むべき事業領域とその戦略を明確にし、2016年3月期の連結決算で売上高4,000億円、営業利益率10%以上、ROE(株主資本当期利益率)15%以上、ROA(総資産当期利益率)8%以上を目指すものです。また、その事業活動を支える経営基盤としてCSR・コーポレートガバナンスも掲げています。

企業として売上高や利益という経済価値も大切な指標ですが、環境や社会の持続性を念頭に置かねば、社会的責任を果たせません。

当社は、スポーツ用品メーカーとして、世界の人々の健康で幸せな生活が実現できる製品やサービスを提供することを使命と考えています。またその使命はステークホルダーや環境の犠牲の上に成り立つものであってはなりません。

CSR経営の実現に向け、全世界6,000人の社員の「より良い製品・サービスとスポーツの力で社会の持続的な発展に貢献しよう」という共通の思いを「アシックススピリット」、「アシックスCSR方針」として明確化し、それを礎に日々の事業活動に当たっています。(1、8ページ参照)

スポーツ用品メーカーとしてのCSR

昨年度末(2011年3月)に発生した東日本大震災は、神戸に本社を置く当社にも大きな衝撃でした。

発生直後に、シューズ、トレーニングウエア、ウインドブレーカーなど約66,000点を提供したことは2011年版CSRレポートでお伝えしましたが、2012年度は引き続いて、震災孤児の皆様の健やかな成長を継続的に支援する活動を開始しました。

「将来を担う青少年の健全な育成にスポーツを通して役立ちたい」という創業者の思いから設立された企業として、1995年の阪神・淡路大震災で全国の皆様から温かい支援をいただいたご恩に報いるため、始めたものです。スポーツには人々に勇気を与える力があります。当社は、スポーツを通じた継続的な活動で復興に向けた支援ができればと考えております。(7ページ参照)

また、メーカーならではのCSR活動には、製品・技術によるサステナビリティ(社会の持続的発展)への貢献があります。

2011年度は、特に環境面のサステナビリティに関して高い専門性を持つマサチューセッツ工科大学と共同で、フットウエア事業での環境負荷軽減に向けた研究をしました。

原材料調達から製造、流通、廃棄までの各段階のCO_2排出量を把握し、それを基にサステナビリティ・ターゲット(中期環境目標)を設定する試みで、2012年度はその成果の一環として、機能性を維持しながらCO_2排出量を20%抑えた商品を発売します。今後、他の事業部門にもこのような取り組みを広げていく予定です。(5ページ参照)

ものづくりにおけるCSR側面は、環境問題が全てではありません。

法令順守は言うまでもなく、サプライチェーン上で働く人々の権利保護にも取り組んでいます。

現状では、本社のCSR部門が主に担っておりますが、今後は、製造及び生産管理や品質管理に当たる海外事業所も労働面を始め、環境、化学物質管理といったCSR側面に対する拠点の一つになり得るような体制にしていく考えです。

そのほか、2011年度にアシックスが日本企業としては初めて加盟したSAC(サステナブル・アパレル連合)では、環境や社会への悪影響の低減に業界の枠を超えて取り組んでいます。個々の企業では解決が難しいCSR課題に、当社もその一員として取り組んでいきます。

コミュニケーション強化と社会価値の創造

「社会価値を創造することで経済価値を創造する」という考え方が今後のCSRの主流になると思います。

アシックスは、本業を核にして常に社会価値を念頭に置いた活動をしてきましたが、その活動を社会のより多くの人々に認識していただけるよう、ステークホルダーとのコミュニケーションを強化していきたいと考えております。

それは、経営の透明性を高め、説明責任を果たすというだけにとどまらず、当社CSR経営の質の向上、ひいては社会の持続的発展にもつながると信じております。

今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

特集1　フットウエア事業の環境負荷低減に向けて

アシックス×マサチューセッツ工科大学（MIT）共同研究プロジェクトを実施

アシックスは、マサチューセッツ工科大学（以下MIT）と、シューズの生産活動での環境負荷の低減を目指す共同研究プロジェクトを実施しました。様々なグローバル企業の環境分析を手がけるなど高い専門性を持つMITと協働することで、信頼性の高い研究結果を得ることができました。

その成果は、当社の2015年度に向けての中期サステナビリティ目標の設定と、製品開発に反映されています。

今後も、持続可能な社会の実現を目指し、フットウエア事業を中心に、環境配慮に努めます。

Ⅰ アシックス×MIT　共同研究プロジェクト［2010年8月～2012年7月］

ランニングシューズのCO_2排出量を測定

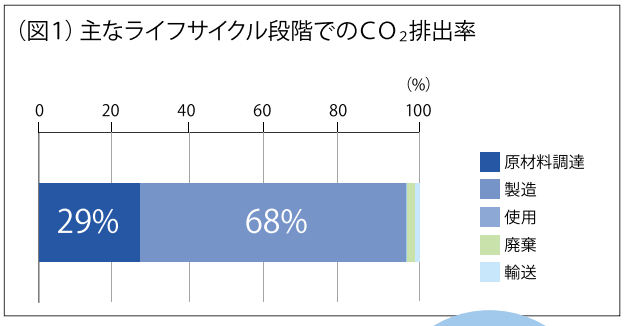
製品の環境負荷を把握するために、当社の代表的な製品であるランニングシューズ「GEL-KAYANO17（ゲルカヤノ17）」のCO_2排出量を測定しました。その結果、原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るまでのライフサイクル全体のCO_2排出量は、1足当たり約14kgであることが分かりました。これは、100ワットの電球を1週間使用した際のCO_2排出量と同じです。

各ライフサイクル段階のCO_2排出量を分析した結果、主に原材料調達段階と製造段階での環境負荷が大きいことが分かりました。特に製造段階は全体の約68%を占めています（図1）。

本プロジェクトでは、中国にある当社の主要な製造委託先工場の協力を得て、必要なデータ収集や製造工程分析を行いました。製造工程での継続的な環境負荷改善のために、製造委託先工場とともに考え、密接に取り組んでいくことが非常に重要だと考えています。

製造工程に関する意見交換の様子

（図1）主なライフサイクル段階でのCO_2排出率



※MITの学術論文参照（次ページ）

1足当たりのCO_2排出量 約14kg

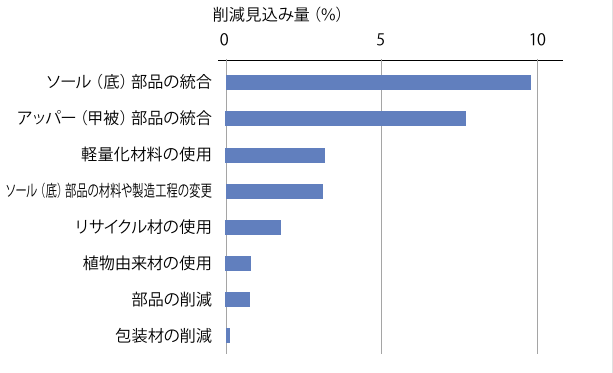
製品のCO_2排出量削減を検討

測定・分析結果を受け、MITから製品のCO_2排出量削減の方向性が提示されました。

❶パーツ数の削減
❷材料ロスの削減
❸製造工程の改善
❹材料の代替
❺工場でのエネルギー代替
❻工場での電力エネルギー源の代替
❼工場での建物の省エネ

これらの方向性から、実際のシューズに適用するに当たり、シューズの機能性を維持したままCO_2排出量を削減する方策を検討し、それによるCO_2削減量を定量化しました（図2）。

（図2）各方策のCO_2削減量



※下記MITの学術論文参照

参照：
学術論文 "Manufacturing-Focused Emissions Reductions in Footwear Production"
http://ssrn.com/abstract=2034336

"LCA streamlining of manufacturing impact, a case study of running shoes"
The International Symposium on Sustainable Systems and Technology

マサチューセッツ工科大学 共同研究スタッフのコメント

今回のアシックスとMITの共同研究により、持続可能な製品デザインと製造の面で、産業と学問の双方に貢献できたと感じています。

プロジェクトでは、アシックスや製造委託先工場との活発なやり取りを通じて、CO_2排出量の高い削減が見込める箇所の特定に不可欠な、詳細な活動データを収集することができました。

研究の視点では、このような種類の製品では比較的製造段階での環境負荷が高いという特徴がある、という重要な知見を得ることができました。

Ⅱ プロジェクト成果を中期サステナビリティ目標の設定と製品開発に反映

2015年度に向けてのサステナビリティ目標を設定

プロジェクトの成果を基に、当社の中期サステナビリティ目標を設定しました。バリューチェーン全体を考え、その中でも製造工程での環境負荷低減に注力し、次の3項目を重点目標としました。
（詳細は14ページ参照）

- **●温室効果ガス（CO_2）の削減：10%※1**
- **●化学物質管理の継続的強化**
- **●業界をリードするサステナブルな製造工程の研究、開発**

CO_2削減策を製品開発に適用

プロジェクトで検討したCO_2削減策（図2）のうち、削減効果が大きい「ソール（底）部品の統合」「アッパー（甲被）部品の統合」などは、ランニングシューズ「GEL-KAYANO18」の秋冬モデル（新色）に適用し、機能性はそのままでCO_2排出量を約20%削減しました。※2

※1 対象範囲：事業所、フットウエアの製造工程及び輸送
※2 同モデルで環境配慮に取り組まない場合との比較

GEL-KAYANO18 秋冬モデル（新色）での環境配慮の取り組み

A Bright Tomorrow Through Sport

あしたへ、スポーツとともに

スポーツを通して子どもたちをサポート

アシックスでは、スポーツを通して「東北」の復興に貢献するために、震災孤児への支援を柱とする4つのプログラムを開始しました。

アシックスアメリカコーポレーションのチャリティー活動

被災孤児への支援を開始

アシックスは、2011年3月11日に発生した東日本大震災被災地への支援活動として、震災直後に義援金2,000万円の拠出と約66,000点のスポーツ用品の緊急義援活動を行いました。

更に、この震災で両親を亡くした子どもの心身ともに健やかな成長を願い、スポーツを通じた継続的な支援活動「A Bright Tomorrow Through Sport」（あしたへ、スポーツとともに）を開始しました（右表参照）。

商品提供プログラムを先行

商品提供プログラムでは、県や市町村の教育委員会を始め、地元新聞社やラジオ局への案内を重ねた結果、2012年3月末時点で181人の震災孤児の方々に商品をお届けすることができました。

また、被災地が落ち着きを取り戻し、学校でのスポーツ活動がようやく再開し始めた10月以降は、神戸招待プログラム、スポーツ選手派遣プログラム、NPOと協働しての健康運動指導プログラムも推進しています。

スポーツ選手派遣プログラム

4つの支援プログラム

① 商品提供プログラム	2011年4月1日の時点で0歳から18歳までの震災孤児を対象に、対象者が満19歳を迎えるまでの間、当社スポーツ用品を継続的に提供する。
② スポーツ選手派遣プログラム	被災地域へスポーツ選手を派遣し、スポーツに関わるきっかけを提供する。
③ 神戸招待プログラム	被災地域の子どもをアシックススポーツミュージアムやアシックススポーツ工学研究所（ともに神戸市）などに招待し、スポーツの楽しさや復興後の神戸に触れることで活力を取り戻していただく活動を行う。
④ 健康運動指導プログラム	健康運動指導士など各種運動指導者の資格を持つ社員が被災地域を訪問し、健康のための運動指導を行う。

スポーツを通しての支援を継続

当社は、戦後復興期に、「スポーツによって青少年の健全な育成に役立ちたい」との願いから創業された企業で、今回の大災害でも同様に、スポーツを通して被災地の復興に貢献したいという思いを強く抱きました。

また、1995年の阪神・淡路大震災で被災した際、全国から多くの温かい支援をいただきました。その経験で、継続的な支援が必要であることを痛感したことから、当社は将来の日本を支える子どもの健やかな成長を支援し続けていきたいと考えています。

お礼の手紙

アシックスCSR方針

スポーツに関わる製品やサービスを通して、世界の人々の健康と幸せ、そして持続可能な社会と環境を実現する。

理念1

スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する

- 技術革新を行い、お客様のニーズに応える持続可能な製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。
- お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンのすべてで管理に努めます。

理念2

私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する

- 製品の設計や製造工程をはじめとする事業活動のすべてにおいて、環境負荷の低減に努めます。
- スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。

理念3

健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する

- 公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。
- 株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。
- 協力工場をはじめとするサプライチェーンに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。

理念4

個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

- 自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。
- 多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

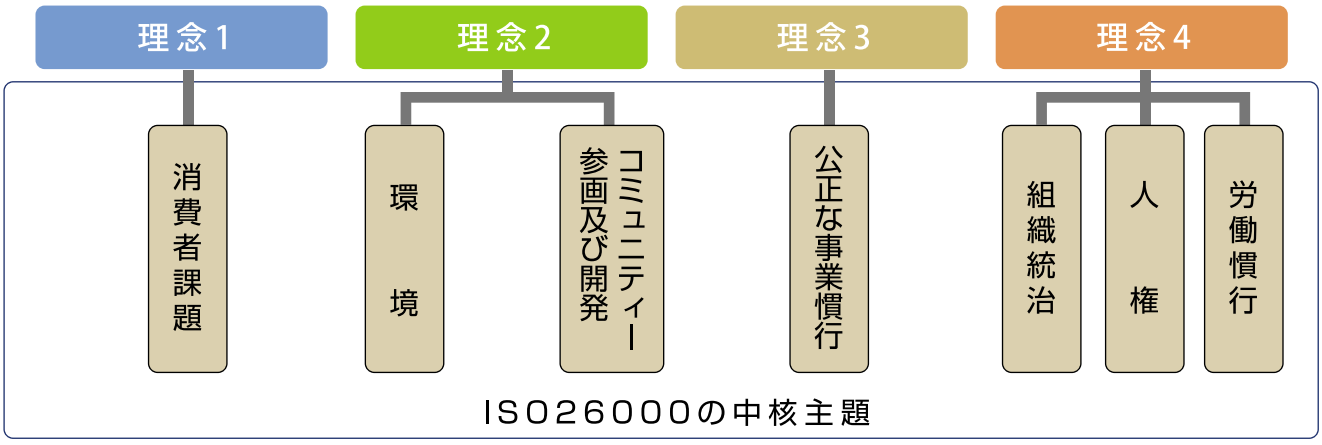
「CSR目的」

4つの「CSR原則」

- ステークホルダーとコミュニケーションをはかり、パートナーシップを構築する
- 人権を尊重し、個人の健全な成長を推進する
- 倫理的に行動し、法令を順守する
- 説明責任を果たし、透明性を保つ

アシックスCSR方針

アシックスの理念とISO26000中核主題の関連



製品とサービス

アシックスの理念1.
スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する

CSR目的:
●技術革新を行い、お客様のニーズに応える製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。
●お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンのすべてで管理に努めます。

安全と品質

製品等安全・品質保証方針

アシックスは、製品安全・品質保証をメーカーの普遍的責務であると捉え、「製品等安全・品質保証方針」を以下の通り定めています。

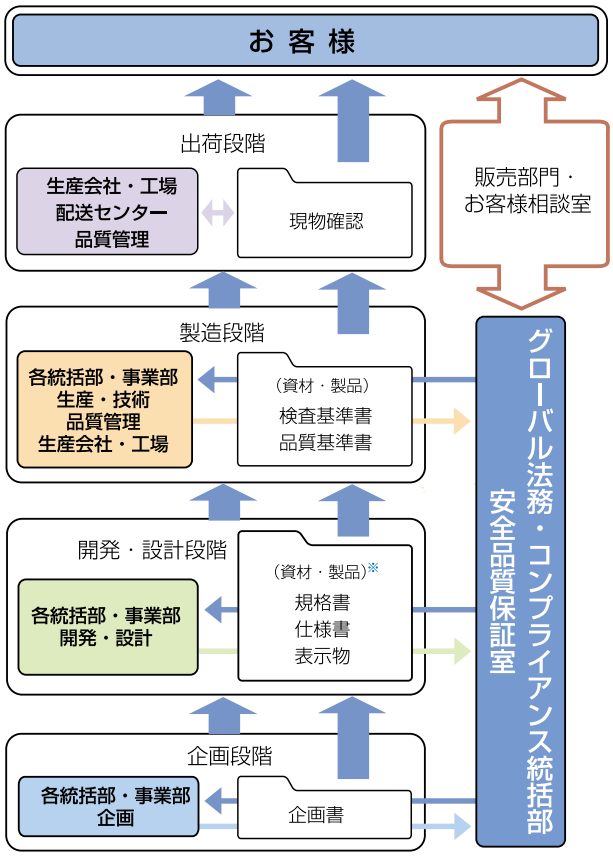
(1) 私たちは、お客様に満足いただける安全で高品質な製品・サービスを追求します。
(2) 私たちは、お客様に正確でわかりやすい情報を提供します。
(3) 私たちは、ものづくりにおける法令、基準を遵守します。
(4) 私たちは、製品およびサービスの安全・品質保証活動（以下「製品等安全・品質保証活動」という。）の維持向上に努めます。

当社は、各部署に「製品等安全管理者」を置き、情報の共有化及び部署間の整合性を図り、製品等安全・品質保証活動を推進しています。

プロセスごとにチェックを徹底

企画から出荷までの主な段階で、製品安全対策と品質向上対策の適合状態、商品及び広告宣伝物の表示について審査しています。

製品安全審査フロー



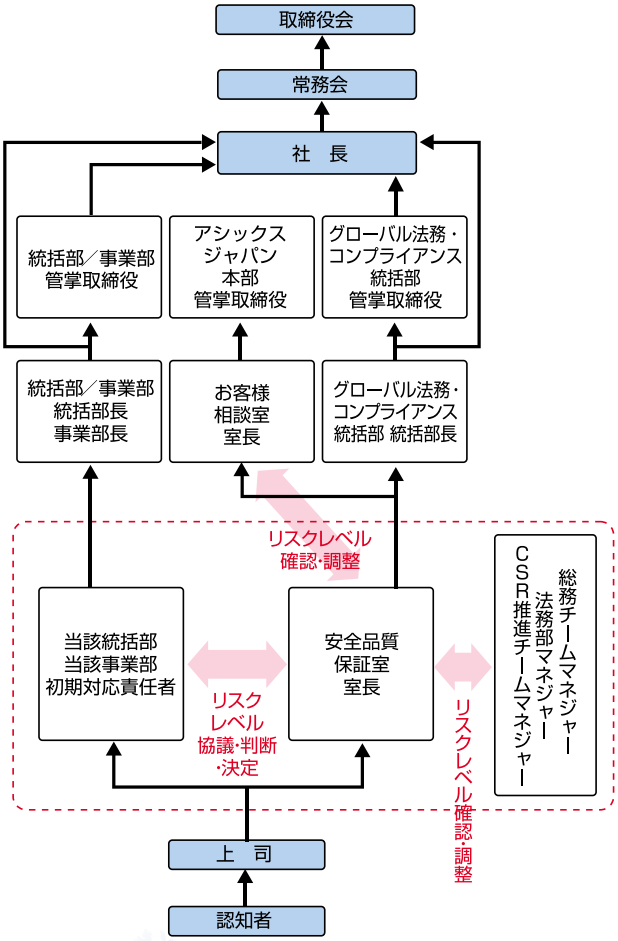
※資材・製品の安全性と品質に関しては、法規制、業界基準、自社基準に定められた試験が実施されているかどうかを確認し、その判定結果に基づいて指導・提案を行っています。
また、有害化学物質に対する独自の管理基準を定めて運用を進める一方、製品安全審査の一環として一部商品のモニタリングも行っています。

製品安全に関わる重要事項を社内共有

当社は、製品の不具合・不良事故について、その事象のリスクレベルによってはアシックスグループ全体の事業活動に重大な危機をもたらすものとして認識しています。

不具合・不良、更には事故が発生した場合、及びその可能性が予測される場合に、当社はお客様の安全を第一と考え、下図のフローに沿って正確かつ迅速に経営の中枢に伝達し、問題解決・再発防止に当たるとともに、被害の重大性などに応じて、新聞社告、ホームページなどによりお客様にできる限り早く情報を開示しています。また、法にのっとり、所管官庁へ速やかに報告しています。

事故情報伝達フロー



リコール（自主回収）について

2011年度は、残念ながら6件のリコール(自主回収)を実施しました。

リコールの概要　（国内）

2011年5月	オニツカタイガーパンツ： サイズ規格（ウエストサイズ）表示の誤り
2011年6月	フィットネスアパレルパンツ： 品質表示ラベル「繊維の組成」表示の誤り
	ランニングバッグ： 下札の機能説明の誤り
2011年10月	アウトドアジャケット・ベスト： ボタンが本体から抜けることによる生地破れ
	カーフサポーター： ブランドマークが商品の伸縮に伴い剥離（はくり）
2011年12月	ワンピース： ファスナーが身頃から外れる可能性

品質情報展

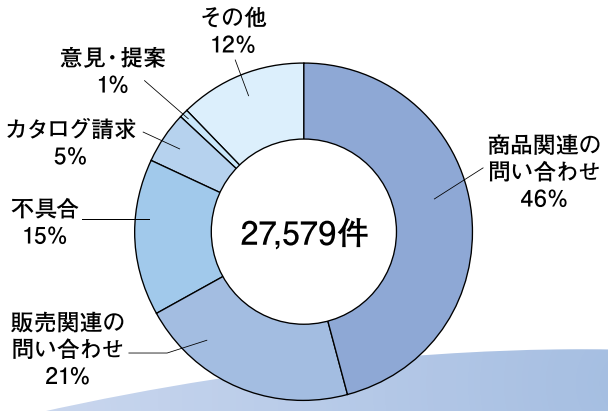
お客様からいただいた様々な声をグループ会社も含めた社内に公開する「品質情報展」を2003年から毎年開催しています。

お客様がご不満を持たれた商品や不具合品と、それに伴うお客様の声、お客様相談室の対応内容、品質管理部門によるお客様の指摘部分に対する検査・確認結果を展示するものです。

お客様満足の向上を目指して

当社の「お客様相談室」は、1980年、創業者である故・鬼塚喜八郎の「ユーザーの不満を掘り起こせ。そこに宝の泉がある」との考えから設立された「消費者相談室」が前身です。単なる苦情処理にとどまらず、お客様の声を社内に伝えるという役割を重視しています。

お申し出内容の内訳



お客様の信頼に応える商品とサービス

アシックスでは、環境配慮はもちろんのこと、常にお客様の要望にお応えできる商品の開発とサービスの提供に努めています。

品名：GT-2160

アメリカのランニング専門誌「RUNNER' S WORLD」の2011年の「International Editor's Choice」賞に選ばれました。この賞はその年に発売された最も優れたシューズに贈られるものです。

再生ポリエステルの採用、廃材が少ない成型工程の採用など、環境にも配慮しています。

また、ＡＰＭＡ※（アメリカ足病医学会）から認定を受けています。

※ＡＰＭＡ（アメリカ足病医学会）は、足病医（Podiatric Medicine）の大半が加盟する権威ある団体で、1912年に設立。
40種類以上の当社シューズがＡＰＭＡ（アメリカ足病医学会）の認定を受けています。この認定を受けるためには、試験機関による厳格な臨床試験に基づく、安全性と有効性の証明が必要となります。

品名：BC WALKER SHAPE

美しい歩行姿勢に導くことが期待できる機能、歩くことで下肢のシェイプアップができる機能の２つを融合させた新しいコンセプトのウオーキングシューズです。

また、廃材が少ない成型工程の採用、耐久性に優れたソール（外底）素材の採用など、環境にも配慮しています。

品名：ランニングウオッチ

グッドデザイン賞に選ばれました。ランナーの動き、操作性を綿密に検証し、考慮し尽くして生まれたデザインが高く評価されました。

※本商品はセイコーインスツル株式会社と企画・開発しました。

GOOD DESIGN

品名：ＡＹサポートクロスブラ

上半身の動きを研究し、運動時のバストの揺れを軽減しました。生地と肌の接触も少なくしています。動作に伴う肌への擦れやつっぱり感などをなくし、スムーズな動きを可能にしたスポーツブラです。

サービス名：My ASICS

科学的な理論に基づき、ランナー一人ひとりのレベルや走る頻度などに合った効率の良いトレーニングメニューを提供する無料オンラインサービスを当社ウェブサイトでスタートしました。少ない練習量でも高い効果が期待できる効率の良いトレーニングメニューを提供できるのが特徴です。

http://my.asics.co.jp/

個人情報管理

個人情報管理方針

アシックスは、お客様情報を始めとする様々な個人情報について、その重要性や保護の必要性を理解し、適切かつ安全な管理に取り組むため、以下の個人情報管理方針を定めています。

1．当社は、各種スポーツ用品及びレジャー用品の製造・販売を主要事業と致しておりますが、このような事業の内容及び規模を考慮して適切に利用目的を特定するとともに、その範囲内で個人情報を取得、利用及び提供致します。
2．特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いを行わないとともに、そのための措置を講じます。
3．個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止及び是正に努めます。
4．個人情報に関する法令、国が定める指針及びその他社内外の規範を遵守致します。
5．苦情及び相談を受け付けた場合は、適切かつ迅速に対応致します。
6．個人情報を適切に管理、保護するためのマネジメントシステムを構築し、継続的改善に努めます。

プライバシーマーク

個人情報管理体制

2011年度は、2010年度の活動に関しての「社長による見直し会議」で決定した「お客様からお預かりした個人情報を適切に管理、保護する」ことを目標に、次の２点の実施計画を立案して活動に取り組みました。

（１）個人情報の外部持ち出しルールの再検討。
（２）プライバシーマーク未取得の国内販売子会社に対しても社員向けセミナーを強化し、グループ全体の管理レベルを上げる。

2011年度の実施事項を「社長による見直し会議」で報告し、2012年度の実施計画３点が立案されました。

（１）リテール部門の強化により顧客情報が増加しリスクは高まるが、顧客情報の有効活用を図ること。
（２）個人情報の管理についての理解を踏まえ、個人情報の漏えいがないよう一人ひとりが気を付けること。
（３）リスクに応じた管理をすること。

2011年度の実績

計　画	実　績	評　価	課　題	改　善　策
1．個人情報の外部持ち出しルールの再検討	USBメモリ等外部記憶媒体の使用状況を把握するとともに外部持ち出しのルール化が図られた	ＩＴセキュリティガイドラインで具体的な対策が決められた	ＩＴセキュリティガイドラインの啓発	2012年度実施の個人情報セミナーの中で内容伝達を図る
2．グループ販売会社の社員向けセミナーを強化する	グループ販売会社６社の全ての事業所で個人情報管理の教育を実施した	個人情報の管理の大切さについて伝えることができた	個人情報の日々の管理の仕組みが必要	個人情報の日常的な管理を行うために自主点検リストの作成依頼を行った

環境と社会貢献

アシックスの理念2.
私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する

CSR目的:
●製品の設計や製造工程を始めとする事業活動のすべてにおいて、環境負荷の低減に努めます。
●スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。

環　境

環境方針

地球温暖化や資源の枯渇など、環境問題は世界の大きな課題となっています。当社にとってもそれらの問題は事業に大きな影響を与えるものであり、持続可能な発展を実現するために企業として真摯(しんし)に取り組むべき課題と認識し、以下の方針を定めています。

アシックス環境方針

●理念
アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識し、地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。

●方針
（1）アシックスグループにおける環境マネジメントシステムを拡大、整備し、権限と責任を明確にすると共に、地球規模での環境保全を推進する。
（2）あらゆる企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。
（3）企業活動において、あらゆる国や地域での環境関連の法律、規制、協定などを遵守するとともに、より一層の環境保全に努める。
（4）あらゆる商品及びサービスにおいて、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。
（5）環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善を図り、企業の社会的責任を果たす。
（6）アシックスグループ内外の広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関するグループ全従業員の意識の向上に努める。
（7）企業の社会的責任の一つとして、環境保全活動の取り組み状況を積極的に情報公開し、ステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーションを図る。

2011年度の振り返りと今後に向けて

アシックスグループでは、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）のサイクルに基づく環境活動の継続的改善を進めるために、環境マネジメントシステム「ISO14001」認証の取得やそれに準じた環境活動管理を進めています。2011年度は新たに欧州の3事業所でISO14001認証を取得するなど、環境マネジメントシステムを拡大しました。

また2011年度は新たにアシックスグループ全体及び中核事業であるフットウエア事業の2015年度に向けた中期目標を設定しました。

2015年度に向け、原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るバリューチェーン全体を考慮した環境負荷の低減に努めます。

2015年度に向けてのサステナビリティ目標を設定

マサチューセッツ工科大学との共同研究プロジェクトの成果（5ページ参照）を反映させ、アシックスグループ全体及び中核事業であるフットウエア事業の2015年度に向けた中期サステナビリティ目標を設定しました。

バリューチェーン全体を考え、その中でも製造工程での環境負荷低減に重点を置いた目標としました。今後は、これらの目標達成に向けた取り組みを進めていきます。

アシックスグループ中期サステナビリティ重点目標

- ●温室効果ガス(CO_2)の削減　10%※1
- ●化学物質管理の継続的強化
- ●業界をリードするサステナブルな製造工程の研究、開発

※1：対象範囲：事業所、フットウエアの製造工程及び輸送
※2：サステナブル・アパレル連合（SAC）等の環境指標
※3：2013年度目標。対象：国内売上高
※4：生産量の多い製品を重点的に取り組む
※5：対象：国内向け出荷

フットウエア事業の中期サステナビリティ目標

1.製品全体	2.原材料調達	3.製造工程	4.包装資材・輸送
1-1 業界の環境指標の順次適用※2 1-2 グローバルの評価基準の設定 1-3 環境配慮型商品の売上高占有率：35%※3 1-4 化学物質管理の継続的強化	2-1 環境配慮型素材の採用 2-2 業界をリードするサステナブルな材料の研究、開発	3-1 直接取引工場の温室効果ガス(CO_2)、水、廃棄物の削減：1足当たり10%削減（2009年比）※4 3-2 環境配慮型接着剤(水溶性接着剤)の採用促進：生産量の60%以上 3-3 業界をリードするサステナブルな製造工程の研究、開発 3-4 業務委託先工場の労働慣行管理の強化	4-1 包装資材の重量削減、リサイクル材の採用 4-2 物流拠点の集約化による温室効果ガス(CO_2)削減 4-3 製品輸送コンテナの容積率向上：85%以上※5

2011年度の環境目標と達成状況

環境マネジメントシステムISO14001に基づき、2011年度はおおむね目標を達成しました。下表はISO14001認証を取得している本社、スポーツ工学研究所での目標達成状況です。（一部、国内グループの目標です。）

2012年度は、これまでの中期環境目標を引き継いだ中期サステナビリティ目標に基づいて活動を推進し、全体の活動内容が向上、改善されるよう努めていきます。

2011年度環境目標と実績・評価

評価の基準　：達成率100%以上… ☺
100%未満… ☹

項目	2011年度目標		2011年度実績	評価	関連ページ
商品開発	・環境に配慮した商品、サービスの提供	・環境配慮型商品の研究開発 新規開発393点	・新規開発396点	☺	P15
	・2013年度までに環境配慮型商品の売上高占有率を35%にする　※国内売上高	・環境配慮型商品の売上高占有率25%	・売上高占有率28.9%	☺	
情報公開	・環境情報の公開、アピール	・ウェブ、カタログ、展示会、広報、大会などを通じた環境情報の公開、アピールの実施	・ウェブ、カタログ、展示会でエコプランマーク商品を掲載、展示・情報公開	☺	—
工場管理	・委託先工場での環境配慮管理	・環境配慮型接着剤の採用推進 ・委託先工場の環境配慮管理調査	・接着剤採用率54.5%	☺	—
CO_2削減	・2013年度のCO_2排出量を2007年度比８%削減 ※国内グループの目標として取り組む	・CO_2排出量2007年度比６%削減	・2007年度比6.2%減少	☺	P16
教育・啓発	・環境啓発、教育の実施	・アシックスグループでの環境啓発、教育の実施	・4事業所でセミナーを実施	☺	—

環境に配慮した商品の開発

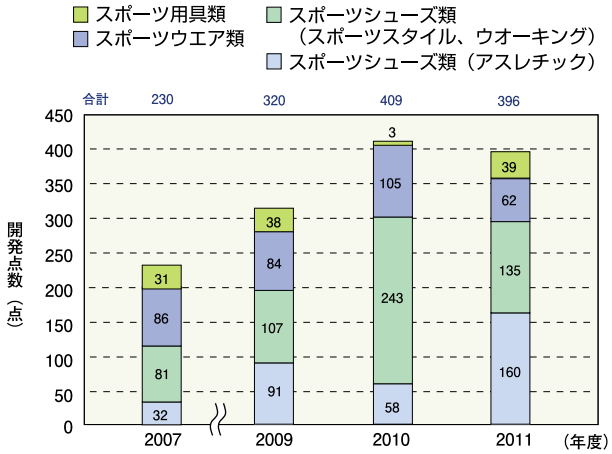
商品の設計段階からの環境配慮を重視し、環境配慮型商品認定基準を設定しています。環境に配慮した素材や工程の選択など、材料調達から、製造、輸送、使用、廃棄に至るライフサイクルの各段階で環境に配慮したものづくりを推進しています。

右表に基づき、商品種別ごとに詳細基準を設定。その基準を満たした商品を当社の環境配慮型商品とし、「アシックス　エコプランマーク」を付けています。この認定基準は開発者の声、市場要求に合わせて、随時見直しています。

アシックス　エコプランマーク

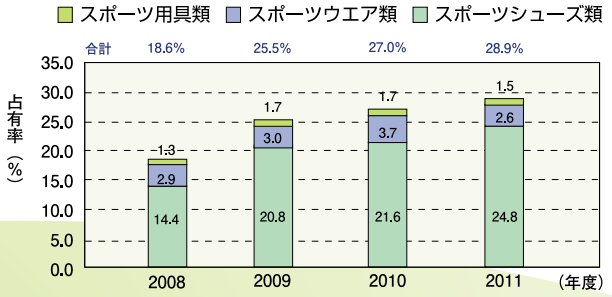
環境配慮型商品の開発結果

2011年度は、環境配慮型商品の新規開発目標を393点に設定。396点（目標比3点増）開発し、目標を達成することができました。



環境配慮型商品の新規開発点数

また、環境配慮型商品の国内の売上高に占める割合を25%以上にするという目標を設定しました。その結果、前年度比1.9%増の28.9%に達し、目標を達成することができました。



環境配慮型商品の売上高占有率

アシックス　エコプランマーク認定基準

クリーン	**環境への負荷を減らすものづくりに取り組みます。** ★環境に配慮した素材、材料を使用し、廃棄時などの環境負荷を減らした商品。 ★廃棄時の環境負荷を減らすため、分別・分解しやすい素材・構造になっている商品。
セービング	**ものづくりにおける省エネ・省資源活動に取り組みます。** ★材料の使用量を減らし、省資源に取り組んだ商品。 ★共通の材料を使用することにより、資源を有効利用して作られた商品。 ★製造工程の効率化により、省エネに貢献した商品。
サステナブル	**商品の長寿命化を促進し、廃棄物の減少に貢献します。** ★消耗部位の修理、交換が可能な商品。また、修理、交換が容易な構造になっている商品。 ★耐久性に優れた素材・構造が採用された商品。
リサイクル	**循環型社会を目指し、リサイクルを促進します。** ★循環型リサイクルシステム（製品⇒回収⇒リサイクル⇒製品）の仕組みを利用して作られた商品。 ★廃材を再利用して作られた商品。 ★リサイクル素材を使用した商品。
包装資材への取り組み	包装資材も商品の一部ととらえ、軽減、簡素化に取り組みます。

有害化学物質管理

欧州のREACH規則、米国の子ども用製品に対する鉛規制などを始め、有害化学物質の地球規模での管理が進み、環境に関する規制も厳しくなっています。

特にREACH規則は、これまでの化学物質管理の方法では人の健康と環境を十分に守ることができないとの認識から、予防原則を基に既存制度を根本的に見直して策定されており、人の健康被害の防止に加え、動植物の生育、生息への影響をも防止するよう対象が広がっています。

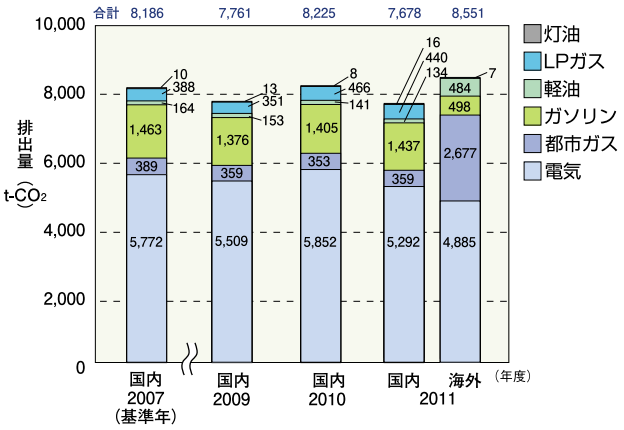
当社は、「アシックス環境方針」に基づき、製品の化学物質の管理・運用に関する「有害化学物質の管理・運用ガイドライン」を制定しています。このガイドラインでは、法規制と環境アセスメントに基づいて化学物質を禁止物質、管理物質の２つの管理ランクに区分し、その管理基準に従って製造委託取引先に管理・運用を求めています。

今後も法規制や環境の変化に合わせて、随時ガイドラインを改訂していきます。

事業所でのCO2排出量削減の状況

2007年度から国内グループ会社各社の事業所でのCO2排出量データを把握しています。それを基に中期サステナビリティ目標（14ページ参照）を設定し、事業所ごとに削減に向けて取り組んでいます。CO2排出量の削減については、昨年に比べ気候要因による影響も少なく、節電の取り組みを更に強化したことにより、国内グループ全体では、2007年度比6.2%削減という結果となりました。

2012年度は、現行設備での削減に加え、環境配慮型の設備の導入も検討し、目標の達成に向けて努力します。また、2010年度から海外グループ会社のCO2排出量データの把握を開始し、グローバルでのCO2排出量の削減を推進しています。

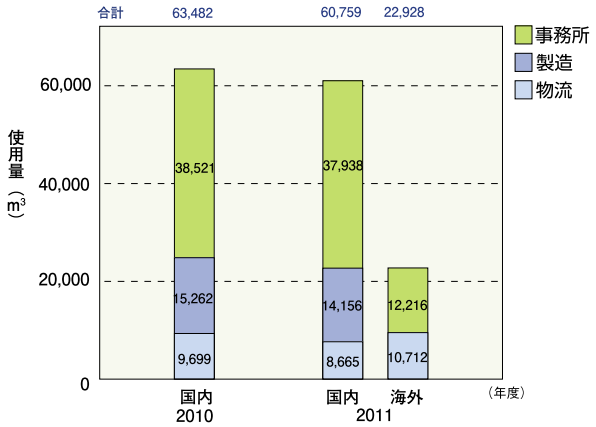


※国内（33事業所）及び海外（37事業所）のデータです。
※国内グループのデータは、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）に基づく係数を用いて算出しています。また、電力の排出係数は、0.410kg-CO2/kWh を使用しています。
※海外グループのデータは、GHGプロトコルが提供する係数を用いて算出しています。

ＣＯ2排出量の推移

事業所での水使用量の把握

2010年度からグループ全体の水使用量の把握を開始しました。



※国内（33事業所）及び海外（37事業所）のデータです。

水使用量

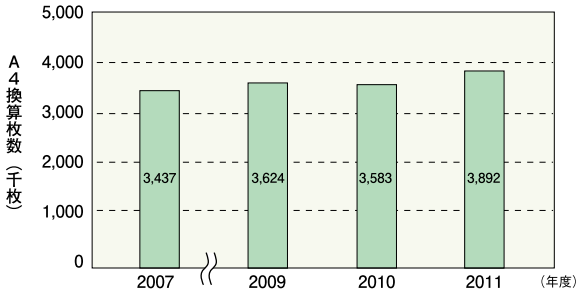
省資源・廃棄物管理、ごみの削減、グリーン購入

コピー用紙使用量の削減、産業廃棄物・事業系一般廃棄物量の削減、グリーン購入（環境に配慮したオフィス文具の購入）の実施に継続的に取り組んでいます。

コピー用紙使用量は、従業員数の増加により2010年度比で10.7%増加しました。

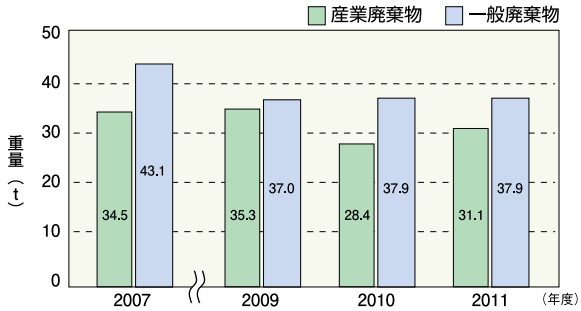
本社とスポーツ工学研究所の廃棄物には、商品開発・研究の際に使用した材料類などの産業廃棄物とオフィス業務から出る事業系一般廃棄物があります。産業廃棄物量は、同9.5%増加、事業系一般廃棄物量は、増減がありませんでした。

また、スポーツ工学研究所で排出された廃棄物のうち6.1トンをＲＰＦ（固形燃料）としてリサイクルしました。今後は、より多くの事業所で、省資源・廃棄物の削減に取り組んでいきます。



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

コピー用紙使用枚数



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

廃棄物量

事業所ごとの主な活動

支社・販売子会社	・消灯の徹底　・省エネ型照明への切り替え ・アイドリングストップ等のエコドライブの実施、教育など
生産子会社	・不要箇所の消灯の徹底　・クールビズ、ウオームビズの徹底 ・機械設備の省エネ化の推進　など
物流センター	・作業の効率化による稼働時間の短縮（使用電力の削減） ・不使用機器の電源オフ　・集約配送効率の向上など
本社・スポーツ工学研究所	・消灯、節電、エコドライブの継続 ・テレビ会議システムの活用による、出張にかかるCO2の削減 ・製品輸送コンテナの積載率・充足率の向上 ・社屋の環境配慮設計、省エネ型照明への切り替え ・グリーンカーテン設置による冷房の節約　など

サステナブル・アパレル連合（SAC）に加盟

2011年3月、アパレル・フットウエアメーカー、小売業者、製造業者、ＮＧＯ、学術機関、政府機関等の組織によるサステナブル・アパレル連合（以下、SAC）が発足しました。アパレル・フットウエア製品の環境面・社会面への負荷低減を目的とし、個々の企業では解決が難しいバリューチェーン全体にわたる課題に取り組むものです。

最初の取り組みとして、製品とサプライチェーンの環境・社会への影響を評価する業界共通の指標開発を目指しています。

当社は2011年6月、業界の取り組みと連動した環境面・社会面の改善活動を進める目的でSACに加盟しました。2011年度は、SACで開発中のアパレル製品の環境影響評価指標のパイロットテスト（試験運用）を実施し、評価指標の内容や使いやすさに関する改善点をSACにフィードバックすることで指標開発に貢献しました。

また、この評価指標を参考に、当社環境配慮型商品認定基準（エコプランマーク認定基準）のアパレル製品の詳細項目を改定しました。

中期サステナビリティ目標(14ページ参照)に掲げるように、業界の環境指標を当社製品の環境配慮の取り組みに順次適用していきます。

アシックスアメリカコーポレーションでの環境活動

事業所での環境配慮

2011年度は、以下の取り組みにより事業所での環境配慮を進めるとともに、従業員の環境意識の向上に努めました。

❶ 物流活動での環境配慮

物流センターでのダンボール箱の再利用を進めています。2011年は、1年間で約443トンの紙のリサイクルを達成しました。

❷ ごみの削減とリユース意識の向上

事業所内に飲料水用の濾過装置を３台設置することで、従業員のペットボトルや紙コップの使用を削減し、ごみの削減を推進しました。濾過装置は国際エネルギースタープログラムの基準を満たした省エネ機器です。

また、繰り返し使用できるボトルとカップを従業員に配布するなど、リユース可能な製品への切り替えを促すことで、従業員の環境活動への参画と意識向上を図りました。

❸ 水使用量の削減

全ての男性用小用トイレに水を使用しないシステムを導入しました。これにより、毎年約45万リットル以上の水使用を削減することができます。

❹ 環境に配慮した備品の調達

手洗い場や食堂にある全ての洗剤、せっけん、紙製品をより環境に配慮した製品に変更しました。例えば、取り換えや詰め替え時などの廃棄物が少ない製品に変更し、紙製品はよりリサイクル材が含まれているものに変更しました。

アシックスヨーロッパB.V.での環境活動

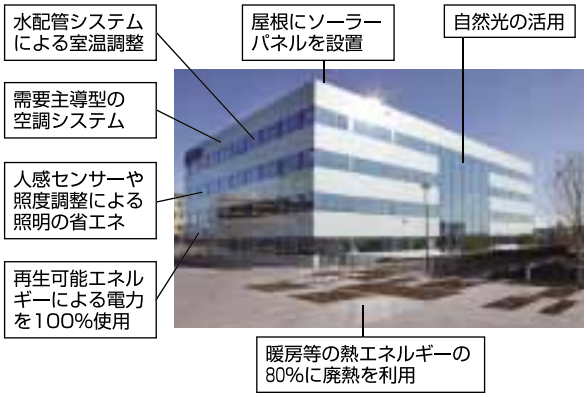
環境マネジメントシステムを拡大

欧州では環境マネジメントシステムISO14001の認証取得事業所の拡大を進めています。2010年に認証を受けたアシックスヨーロッパB.V.に続き、2011年5月には同社傘下のアシックスドイチュラントGmbH、アシックスオーストリアGmbH、アシックスポルスカSp.zo.o.で認証を取得しました。また2012年1月からは、アシックスUKリミテッドが認証取得に向けた環境マネジメントシステムの導入を開始しました。

今後も各地域で認証取得を進めます。

新しいオフィスビルに環境配慮設計を導入

2011年11月、アシックスヨーロッパB.V.は新しいビルに移転しました。新しいビルは以下の環境配慮設計を導入し、環境に優しく働きやすい職場を実現しています。



マネジメントレビュー

アシックスでは、経営視点での環境活動の見直しをするため、年１回、「社長による見直し会議」を実施しています。

2012年３月の同会議で、2011年度の活動を見直し、右の事項を決定しました。

社長による見直し会議

決定事項

（１）環境方針を継続する。（13ページ参照）

（２）中期目標を2015年度に向けた中期サステナビリティ目標に統合し、統括部を活動単位とした環境活動を推進する。

（３）バリューチェーンを意識した商品開発・技術開発を推進し、グローバル企業としての責務を果たす。

環境会計

アシックスは、2010年度から、自らの環境保全に関する投資額やその費用を正確に把握し、投資効果や費用対効果を経営の意思決定に反映させる「環境会計」に取り組みました。

この会計システムはまだまだ初期の段階で、不確定要素もありますが、今後も改善を進め、環境経営のための指標として活用していきます。

環境保全コスト

（単位：千円）

分類		主な取り組み内容	投資額	費用額
1	事業所内コスト		0	32,016
	公害防止コスト	点検・検査及び分析費用	0	13,751
	地球環境保全コスト	省エネ機器の導入費用、省エネカーの導入	50,500	553
	資源循環コスト	リサイクル材料の使用、省エネ設備の導入	0	17,712
2	上・下流コスト	グリーン調達など	0	15,751
3	管理活動コスト	ISO14001管理費用など	0	6,364
4	研究開発コスト	環境配慮型製品開発など	0	79,719
5	社会活動コスト	地域環境支援、寄付など	0	291
6	環境損傷対応コスト	―	―	0
7	その他環境保全に関するコスト		0	0
合計			50,500	166,157

※本社及びスポーツ工学研究所、各事業統括部のデータのみ　※商品に含まれるリサイクル材料のコストは未集計

環境保全効果（物量）

	環境側面	2010年度	2011年度	増減
省エネルギー・省資源	電力（kWh）	3,282,005	3,013,432	−268,573
	ガス類（m³）	143,655	148,920	5,265
	ガソリン（ℓ）	41,069	46,697	5,628
	水道（m³）	20,821	22,575	1,754
廃棄物	産業廃棄物焼却量（t）	28.4	31.1	2.7
	一般廃棄物排出量（t）	37.9	37.9	0

環境保全効果（金額）

（単位：千円）

環境側面	2010年度	2011年度	増減
電気・ガス・ガソリン・水道の支払額	82,836	84,705	1,869

社会貢献

基本的な考え方

「健全な身体に健全な精神があれかし＝“Anima Sana In Corpore Sano”」という創業哲学に基づき、本業であるスポーツを通して人々の健康と幸せ、そして持続可能な社会の実現を目指します。この考え方の下、継続的な社会貢献活動をグローバルレベル、地域レベルで行っていきます。

世界で開催されるマラソン大会を支援

2011年は世界で約50のマラソン大会を支援しました。今後も、国内外のアシックスグループが連携し、各地のスポーツ振興及びそれに伴う社会貢献に努めます。

パリマラソン
開催時期：2011年４月
参加人数：27,328人
Photo by Getty Images

東京マラソン
開催時期：2012年２月
参加人数：35,954人

ING ニューヨークシティマラソン
開催時期：2011年11月
参加人数：47,763人
Photo by Getty Images

ムンバイマラソン
開催時期：2012年１月
参加人数：36,000人

ソウルインターナショナルマラソン
開催時期：2012年３月
参加人数：19,600人

2011年度にアシックスが支援した主なマラソン大会

国内のスポーツ振興のために

幅広い層が参加できる地域イベントを継続的にサポートしています。

(1)第5回アシックス東北販売㈱杯パークゴルフ大会
開催時期:2011年7月
参加者:約127人

(2)第9回アシックスオープンパークゴルフ大会
(北海道)
開催時期:2011年6月
参加者:約400人

(3)第19回アシックスカップ陸上競技大会(愛知)
開催時期:2012年3月
参加者:約1,200人

(4)スペシャルオリンピックス日本※
全国各地区で開催されている競技会・大会、及び日常プログラムに社員がボランティア参加

※スペシャルオリンピックス日本は、知的障がいのある人たちに、様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。

(5)アシックススポーツミュージアムでの活動
(2011年4月1日～2012年3月31日の間)
- ●入場者数:11,830人
- ●ミニチュアシューズ作り:1,140人
- ●スポーツ環境校外学習:12校703人
- ●スポーツ絵画展:写生会29人、一般応募13校 総出品数148作品
- ●ウオーキング講習会:5回開催88人参加

(6)当社設備の一般開放
(本社アトリウム)
兵庫県バスケットボール協会
NPO法人神戸アスリートタウンクラブ「卓球教室」

公正な事業と利益の還元

アシックスの理念3.
健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する

CSR目的:
●公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。
●株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。
●協力工場をはじめとするサプライチェーンに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。

業務委託先でのCSRマネジメント

基本的な考え方

アシックスは、サプライチェーン、特に業務委託先工場及びそこで働く人々とともに発展できる関係作りに努めており、「業務委託先管理方針」に基づき、工場監査及び工場と協働での改善活動に取り組んでいます。

業務委託先管理方針（骨子）

1. 一般原則
アシックス業務委託先は、その国及び地域のあらゆる法令その他の規制を順守して事業を運営する。
2. 雇用基準（項目のみ抜粋）
(1) 強制労働 (2) 児童労働 (3) 嫌がらせもしくは虐待 (4) 差別 (5) 結社と団体交渉の権利 (6) 賃金 (7) 労働時間 (8) 手当 (9) 健康及び安全
3. 環境
アシックス業務委託先は、環境に関して適用される法令その他の規制を順守するとともに、より一層の環境保全に努める。（抜粋）

2011年度の活動総括

2011年度は、東南アジアの委託先工場を中心に59工場を監査しました。それに並行して、アシックスグループ全体でのマネジメントレベルの向上を図り、工場評価指標、監査ツール、業務フローなどの再構築と海外子会社を含めたグループ内での標準化の作業に取り組みました。

監査によって状況を把握でき、課題が見つかった事柄については改善を進めています。また、工場側の理解を深めるため、セミナーなども開催しています。

これまでの取り組みで得られた知見を生かし、今後は更に活動を洗練させていきます。

2011年度の監査

2011年度は、ベトナム、インドネシア、タイ、カンボジアの工場への自社監査を積極的に行いました。新興国に固有のカントリーリスクや労働条件の理解を高めることが狙いです。また、当社社員が直接当たる自社監査には、改善に向けたコミュニケーションが工場と取りやすいという利点があることから、これに比重を置いた活動をしました。

一方で、現地の法規や言語に精通したプロの監査員に委託しての高精度な監査も従来から実施しています。

2012年度以降は、より精度が高い監査と、より円滑な改善活動を目指し、自社監査と委託監査を交互に行う予定です。

年度別監査数

アシックス商品は世界20カ国、157の委託先工場で生産されています。それらの工場を、改善状況、監査頻度を考慮しながら監査しています。2011年は59工場の監査を実施しました。

監査実績の推移

監査年	自社監査	委託監査	ＦＬＡ監査	計
2007年	31	27	11	69
2008年	34	36	8	78
2009年	10	23	10	43
2010年	32	22	8	62
2011年	41	10	8	59

監査項目

「業務委託先管理方針」に沿って作成したチェックシートを用いて監査しています。それによって、法規や国際基準、アシックス基準の順守状況を確認し、個別の状況に合わせたきめ細かな改善策を講ずるように心がけています。

2012年度は、評価指標やチェック項目の精査をし、より的確に状況把握と改善ができる仕組みにしていく予定です。

監査チェック項目と順守率

大分類	順守率（%）
契　　約	76
賃　　金	78
労働時間	77
休日/休暇	85
福利厚生	81
労使関係	64
安全衛生	75
そ の 他	–
総　　合	**77**

監査の種類

評価の偏り、漏れや誤りを防ぎ、より事実に即した監査となるよう、それぞれ長所のある３種類の監査を実施しています。

①自社監査

当社のＣＳＲ担当者が監査員として委託先工場を訪問し、労務管理、労働安全衛生面、環境保全に関する経営陣へのインタビューや資料の確認をします。

監査時には、まず当社の考え方を詳しく経営陣に説明し、世界の動向も踏まえながら互いの意識レベルを合わせるようにしており、その上で問題点の抽出、改善へのアクションに移るようにしています。

②委託監査

当社が専門の監査会社に依頼して実施する監査です。プロの監査員が現地語で実情を確認します。委託先工場外での聞き取り（オフサイトインタビュー）などを通じ、自社監査では集めきれない従業員の声などの情報を得ることができます。

③ＦＬＡ監査

当社が加盟するＮＰＯ「ＦＬＡ※」による監査です。自社監査・委託監査ではない独立した第三者による監査も大変重要です。

※ＦＬＡ：公正労働協会
労働者の権利保護と労働環境の改善に取り組むＮＰＯで、無作為に選んだ委託先工場をＩＬＯ憲章にのっとった独自基準で監査しています。監査結果はウェブサイトでも公開され、公正さと透明性が保たれています。

（上）非常時の安全確保のため、通路の幅を測る
（下）救急箱の中身や管理状況を確認
消防器具の管理状況を確認

監査の指標

「アシックス業務委託先管理方針」に沿って作成した118項目からなる監査チェックシートを用いて工場を評価しています。労働契約、賃金、労働時間管理などの状況が比較的効率よく確認できるとともに、適否の数を比較することで順守率の算出がしやすいという利点があります。

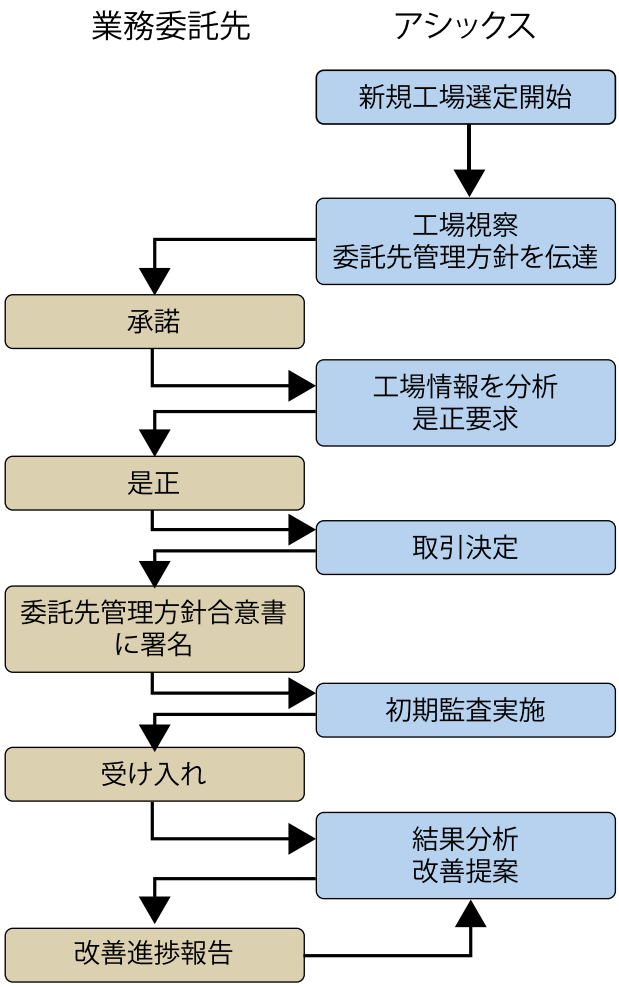
一方で、細々とした断片的な事象の抽出にとらわれがちで、問題をチェックして再発防止策を講ずるという仕組みが工場にあるのかという大局的な評価には、やや不向きであることも分かってきました。

監査で違反事項がなくとも、組織として改善を持続させる仕組みが不十分で、担当者の個人能力によるところが大きい場合は、異動や離職で状況が大きく変わります。

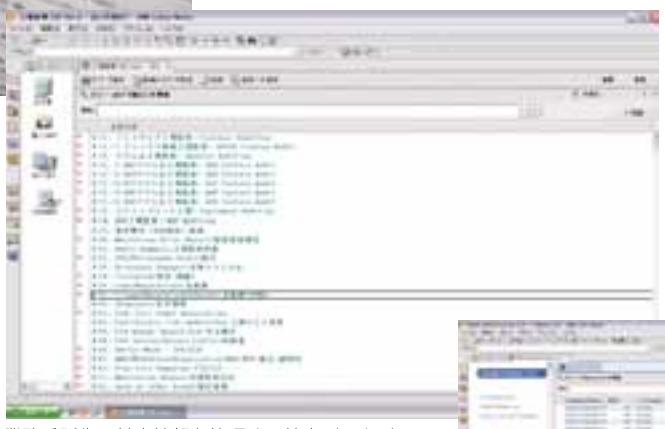
目先の現象にとらわれるのではなく、違反事項の真の原因を追究して改善に導く評価方法を確立する必要があります。

2012年度は、アシックスグループ全体で統一した評価手法を構築するとともに、その評価を導き出す監査ツールを作成し、サプライチェーン管理のグローバル化に向けて再スタートする予定です。

工場選定から初期監査までの流れ



自社監査で用いる書式
左：労働時間や諸制度の報告用紙
中：監査チェックシート
右：監査報告書



業務委託先の基本情報を管理する社内データベース

外部ステークホルダーとのコミュニケーション

アシックス苦情チャンネル

現場で働く人々の声を改善に反映させる目的で、中国の委託先工場で「アシックス苦情チャンネル」の電話番号を掲示しています。

ただ、現在のところ工場の運営やアシックスの取り組みに関する苦情や意見が入ってこないことから、今後はほかの手段についても模索していきます。

各工場に掲示しているアシックス業務委託先方針ポスターに苦情チャンネルの連絡先を貼付（画像右下部分）

他企業・団体とのコミュニケーション

NGO･NPOとの対話、業界団体や他ブランドとの意見交換、サプライヤーとの協働が労働問題の解決に重要であると認識し、TWARO（被服・繊維業界の労働組合のアジア・太平洋地域組織）との情報交換、WFSGI※1（世界スポーツ用品工業連盟）のCSR委員会メンバーとの意見交換を行いました。

また、SAC※2（サステナブル・アパレル連合）の創立メンバーとして設立会議に参画しました。

※1：スポーツ用品に関する企業･団体が加盟する世界的な業界組織。現会長は、当社代表取締役社長・CEO 尾山基。

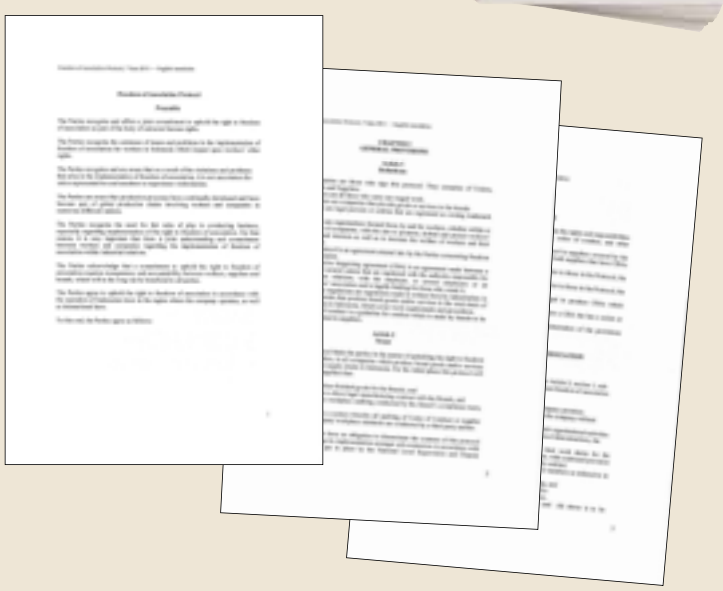
※2：世界のアパレル及びフットウエアのメーカー、流通、NGOなどが集まり、環境や社会への悪影響の低減に向けた取り組みをしている。

TOPICS

インドネシア工場での労働組合設立の推進に賛意

2011年6月、いくつかのNPOからなる団体によるインドネシアの工場への労働組合設立推進要求がWFSGI（世界スポーツ用品工業連盟）を通じてスポーツ業界各社に寄せられました。労働組合設立の趣旨自体は妥当なものであったため、当社は要求書に署名しました。

しかし、労働組合活動は他者や経営側から不当に弾圧を受けることが許されない反面、他者から強制されて行うものでもありません。当社は、この立場に基づいて今後も対応する予定です。



工場管理者向け参加型講習会を実施

アシックスの監査では、違反事項の指摘にとどまらず、委託先工場への指導や改善提案も行っています。

その際、順守すべき事柄の趣旨を知らずに違反していることが多いことに気付かされます。

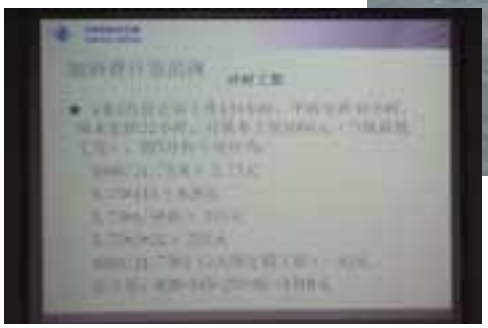
避難誘導線や消火機器周囲の枠線の役割を理解せず、施設状況に合わない位置に引いたり、その上に障害物を置いたりするのがその一例です。

監査終了時のクロージング・ミーティングでは、理解が高まるよう他工場の優良事例も紹介しながら指摘事項を説明していますが、「そのような指導は初めて受けた」、「これまでこれでよいと思っていた」という反応もよく見られます。

そのため、多数の工場の方々を一堂にお呼びし、そこで基礎的な事柄を習得していただくのが効果的であると考え、中国・上海でセミナーを開催しました。

2011年度は、安全衛生を中心とした内容でしたが、賃金と労働時間、健全な労使関係の構築など、テーマはたくさんあります。今後、何が工場にとって必要なのかを考えながら長期的に継続開催していきます。

上海でのセミナー



セミナーでの説明画面（残業代計算方法の例）

上海のセミナー参加者

外部ステークホルダーからのコメント

フットウエアの生産委託先である宝成グループ、外部監査を実施しているFLA（公正労働協会）から、アシックスのCSR活動に対する声を寄せていただきました。

生産委託先・宝成グループからのコメント

アシックスと一体となり事業を展開してきた当社は、従業員の国籍、年齢、性別、宗教などにとらわれることなく、地域行政の規制や国際的なＣＳＲ基準を上回る快適な労働環境を築き上げる努力をしてまいりました。その一環として、様々な地域の食事や生活条件をも含むより良い労働環境実現を目指し、ベトナムやインドネシアなどにおいては特有の気象条件を考慮した広く高さのある作業空間、水冷カーテンや熱換気ファンを導入した工場作りを行っております。また、イスラム教信者の多いインドネシア工場には礼拝堂を設置し、従業員の安息と信仰心に配慮しています。

このような設備面だけではなく、当社は従業員の労働、生活上の問題を解決するため、全ての工場にCSR事務局を設置し、従業員の悩みや意見に耳を傾け援助を行っております。シューズは人が作り、人が履くものですから、人を育てることが非常に重要なのです。

毎年行われているアシックスのＣＳＲ監査においても、当社のこの姿勢を高く評価していただき、同じアジアの企業として、アシックスと当社は価値観を共有し事業を継続してきました。これまで大きな労働争議やストライキを起こすこともなくアシックスとともに歩んできたことは、当社にとって大きな誇りであり喜びです。

今後も末永くアシックスと歩んでいくことが当社の望みです。

新入社員研修

安全衛生に配慮した作業環境

ＦＬＡ（公正労働協会）からのコメント

ＦＬＡは公正な労働慣行を確立するため、元アメリカ大統領のクリントン氏が設立したＮＰＯであり、労働者にとって公正な労働基準の確立とその順守のために、アシックスにはグローバルなサプライチェーンを通じて活動していただいています。

これまでに15年以上にわたって1,000件以上のIEM（Indipendent External Monitoring：外部独立監査）を実施し、より良い労働環境の実現に向け、不順守事項の指摘や改善指導をグローバルに行ってきました。

日本で唯一のＦＬＡ加盟企業として、アシックスは持続可能な製品作りと企業責任を遂行するための先進企業の役割を担っています。今後とも労働者の権利保護や生活改善に向け、お互いに協力し合って活動していきたいと考えています。

ガバナンスと従業員

アシックスの理念4.
個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律ある
アシックスを実現する

CSR目的:
●自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。
●多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

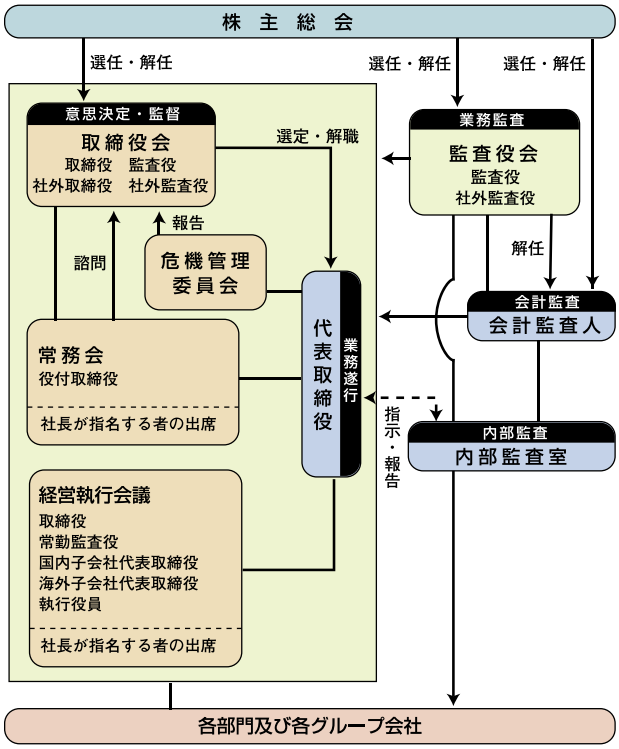
コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

アシックスは、企業価値を継続的に高め、株主など全てのステークホルダーからさらに信頼される会社となるために、スピードある透明性の高い経営を実現するためのコーポレート・ガバナンスを目指しています。経営管理体制の整備を行うとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上などに努め、株主の視点を経営に反映させることを心がけています。

また、当社は、「アシックススピリット」に掲げた創業哲学、「健全な身体に健全な精神があれかしー"Anima Sana In Corpore Sano"」を基本に、ビジョン「スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」の実現に向けて、「アシックスの理念」に基づいて事業を運営することを企業活動の基本方針としています。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

内部統制基本方針

当社は、企業精神である「アシックススピリット」と「アシックスCSR方針」にのっとり、会社法及び会社法施行規則に基づいて、内部統制基本方針を定め、当社グループの業務の適正を確保するための体制を整備しています。

財務報告に係る内部統制

当社は、金融商品取引法の「内部統制報告制度(J-SOX)」に基づく評価範囲を決定し、「全社的統制」「決算・財務報告プロセス」「業務プロセス」「IT全般統制」の各分野について、諸規程やルールを整備し運用しています。

今後アシックスグループ各社の業容拡大に伴い、従来評価対象ではなかった子会社についても内部統制の整備を進めます。またその過程で、関係部門の業務の効率化を図ります。

内部監査

2011年度、内部監査室は当社を含むアシックスグループの会社を対象に、国内7社、海外7社の合計14社の業務監査を実施しました。

国内では、主に販売子会社に対し業務効率化のための改善提案を行いました。また、海外では、業務監査に加え、新たに当社グループとなったホグロフスホールディングABやアシックスカナダコーポレーションに対し業務内容の把握や現地責任者への内部統制に関する指導を目的とした監査を実施しました。

2012年度は、国内海外とも小売部門の強化に伴い直営店の増加が見込まれているため、当該事業の監査を強化する予定です。

危機管理体制

アシックスグループは、危機が発生した場合の損失を最小限に抑えることを目的に、危機の発生時もしくはその可能性が予測される際に基本的な行動が取れるよう危機管理規程を制定し、以下の体制を整備しています。

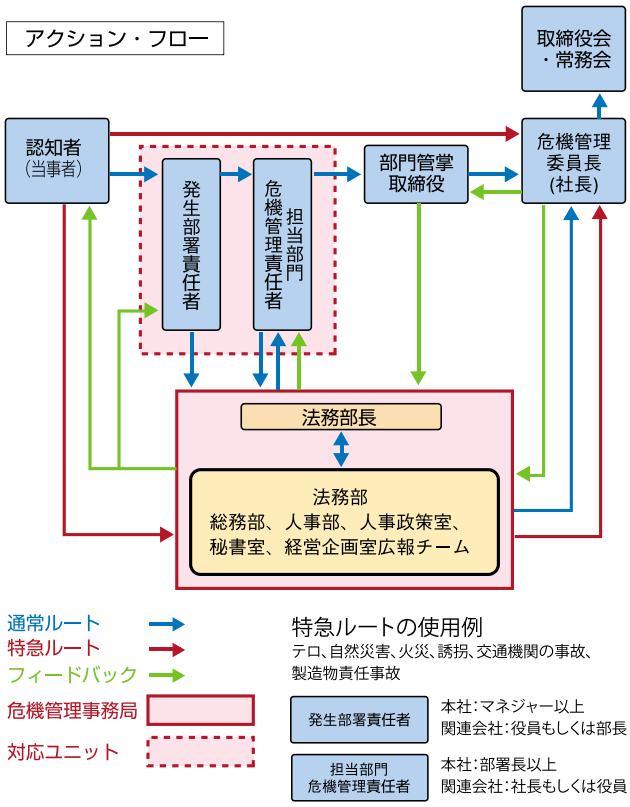
●当社グループの役員及び従業員が危機項目を認知した際には、危機管理規程に定められた方法及び経路で危機管理委員長（社長）に報告するとともに、取締役会に報告する。

●危機が発生した場合、危機管理規程にあらかじめ定められた危機レベルに応じて、危機管理委員長が危機対策本部の設置及び危機対策本部長の任命を行う。 危機対策本部長は、危機対策方針等の決定及び対外交渉等を統括し、対策・改善策等を実施する。

●危機管理委員会は、危険の定期的な洗い出し、予知・予防、教育等の立案・実施及び危機管理・危機対策の評価などを行い、危機管理委員会事務局は、グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理し、内部監査部門は定期的に危機管理状況を監査する。

2011年３月11日の東日本大震災に際しても、翌日には従業員全員の安否を確認することができました。

翌３月12日には被災地に向けての支援物資を調達し、迅速に発送することができました。



アシックス行動規範

アシックスは、全ての役員と従業員が順守しなければならない基本的な事項をアシックス行動規範に定めています。

アシックス行動規範

アシックス行動規範は、当社グループの構成員が日々の活動と、そこで求められるあらゆる場面で順守しなければならない基本事項を定めています。

1.お客様への誠実な対応
1) 革新的な価値の創出とニーズへの対応
2) 安全・安心への配慮
3) 商品に関する適切な表示・説明・広告
4) プライバシーの尊重

2.社会および環境との適正な関わり
1) 反社会的勢力との関係拒絶
2) 法令遵守と地域文化の尊重
3) スポーツ文化と地域社会への貢献
4) 環境負荷の低減

3.公正な事業活動
1) 規律ある事業活動
2) 談合・カルテル・ダンピングの禁止
3) 節度ある接待・贈答
4) 取引先との適正な関係
5) 知的資産の尊重
6) 会社財産の保護
7) 守秘義務
8) 公私の峻別
9) インサイダー取引の禁止
10) 適切な企業広報と情報開示

4.健全な職場の維持
1) 健康的で安全な職場環境
2) 差別の排除
3) ハラスメントの禁止
4) プライバシーの尊重

詳しくは、下のWebサイトでご覧ください。
http://www.asics.co.jp/corp/envi/D

知的財産保護

ビジネスのグローバル化に伴い、当社の知的財産権が侵害されるケースも増加しています。ブランド価値が損なわれるのを防ぐための知的財産保護活動をグローバルに展開しています。

近年、模倣品については、発展途上国での製造事例及び世界各地での販売事例が多発しており、その監視と摘発を強化しています。

2009年度からは、模倣品被害の現状とブランド価値への悪影響について社内の認識を高めるため、模倣事例を展示する場を定期的に設けています。会場では、当社がどのような対策を講じているかについても紹介しています。

模倣品への対策を継続し、お客様に安心して当社の商品を買っていただけるよう努めます。

スピークアップライン

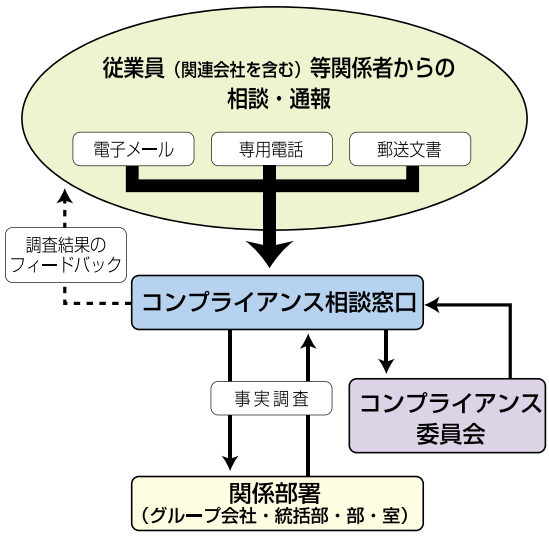
コンプライアンス相談窓口「スピークアップライン」を、国内グループのほか米国・欧州を始めとする海外の主要な販売会社に設置しています。役員及び従業員が倫理、法令や「アシックスＣＳＲ方針」及び「アシックス行動規範」に反する、または反する恐れのある行為を認識した場合に相談・通報できる体制で、これにより事態の迅速な把握及び是正を図っています。

なお、この窓口への通報者が不利益な取り扱いを受けないよう配慮した仕組みになっています。

2011年度コンプライアンス活動（継続実施事項）

新期学卒採用者（アシックスグループを含む）研修（参加者51人）でＣＳＲ教育の一環として、コンプライアンス及びセクハラ・パワハラに関する教育を実施
中途採用者研修でＣＳＲ教育の一環として、コンプライアンス及びセクハラ・パワハラに関する教育を実施 ・2011年 6月17日：19人 ・2011年11月 8日：37人 ・2012年 2月 7日：25人
統括部長・部署長に対して、コンプライアンスの全体像、ハラスメント防止、労働時間管理についての研修を実施 ・2011年11月7日～12月20日：145人

スピークアップラインのフロー



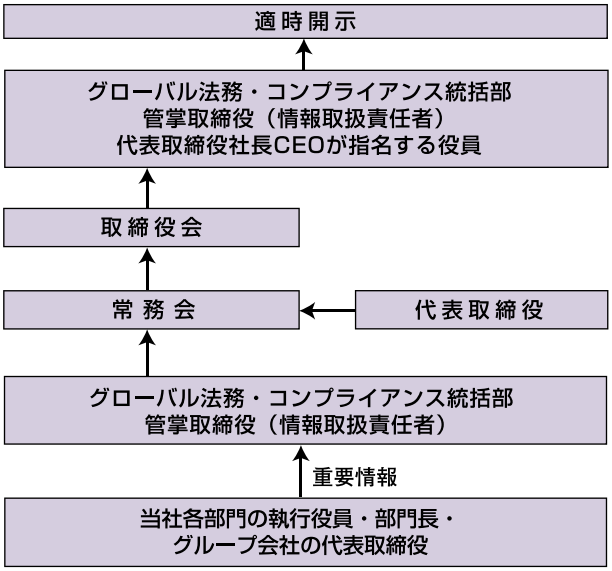
株主・投資家とのかかわり

適時開示体制

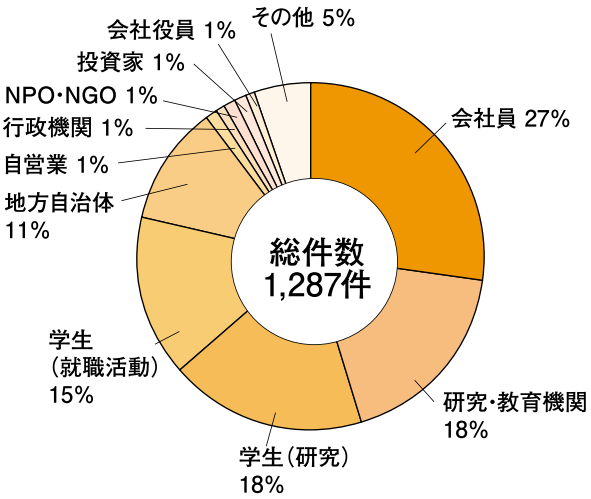
アシックスは、投資家への適時・適切な会計情報などの開示が、健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識しています。また、常に投資家の視点に立った迅速、正確かつ公平な情報開示を適切に行えるよう社内体制の充実に努めており、今後も真摯（しんし）な姿勢で臨みます。

なお、証券取引所に開示した情報は、速やかに当社ホームページに掲載しています。

適時開示のフロー



インターネットを通じてのCSRレポートの配布先



コミュニケーション

株主、投資家の皆様とのコミュニケーション媒体として、アシックス通信（日本語）を半期に1回、アニュアルレポート（英語）を年に1回発行しています。

またインターネットの当社ホームページにも有価証券報告書を始めとする情報を掲載しています。

多様なステークホルダーの皆様に向けては、企業の経済的な側面の情報だけではなく、環境と社会的側面についても記述したCSRレポートを年に1回発行しています。

当社は「エコほっとライン」のホームページに登録企業として参加し、ステークホルダーの皆様がウェブサイトから当社の最新CSRレポートを無償で入手できるようにしています。

当社ホームページの投資家向け画面

従業員

各種制度の充実

「ワーク・ライフ・バランス」への取り組み

業務の効率化による時間外労働の削減のほか、育児や介護などで一時的に仕事を離れても働き続けることができる制度の設計で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に取り組んでいます。

子育て支援策では、女性社員の育児休業の取得は第１子にとどまらず、第２子・第３子での実績が増加しています。

海外実務研修制度

若手従業員を中心に海外関係会社及び海外事業所に１年間派遣する海外実務研修制度を導入しており、2011年度は２人を派遣しました。また、アシックスヨーロッパB.V.からも、2007年度から実務研修生を受け入れています。

多面評価制度や複線型人事制度など

部下・上司・同僚が管理職を評価する多面評価制度や、専門性の高い研究職及び技術職の働き方にも対応する複線型人事制度、必要な人材を社内から募る社内公募制度、希望分野を従業員自らが申し出るエントリー制度、異動や仕事に対する自分の考え方などを申し出る自己申告制度などの導入により、柔軟性のある人材活用を図っています。

アシックスビジネスリーダースクールの開設

急速に進むグローバル化や市場変化に柔軟に対応できる人材を中長期的に供給できる基盤を強化するために設けました。アシックス・グロース・プラン達成や将来の発展に寄与できる経営幹部候補を早期にかつ継続的に育成します。2011年度は以下の3つのクラスを実施しました。

部長・マネジャークラス:8人 10カ月間
研修のゴール「グループ経営幹部としての視野・視座の醸成」

アシスタントマネジャークラス:16人 9カ月間
研修のゴール「リーダーとしてのマネジメントスキル習得、視野・視座の醸成」

担当者レベル:8人 8カ月間
研修のゴール「英語、コミュニケーション、市場分析スキルの強化」

法律を上回る休暇制度等

育児休業制度
子どもが2歳に達する日まで取得可能です。
（法律では最長1年6カ月）

介護休業制度
通算で1年間取得できます。（法律では最長93日）

育児短時間勤務制度
子どもが小学校6年生を修了するまで、所定労働時間を短縮できます。（法律では小学校就学前までが努力義務）

短時間フレックスタイム制度
育児・介護を目的とする場合は、所定労働時間を1時間短縮した上で、フレックスタイム制度も利用できます。

子の看護休暇制度
子どもの病気等に対応するため、小学校6年生の修了時まで1年間に10日間の休暇が取得可能です。
（法律では1人目は5日、2人目は10日）

介護休暇制度
要介護状態の対象家族に対して1人目から1年間12日の休暇を取得可能です。
（法律では1人目は5日、2人目は10日）

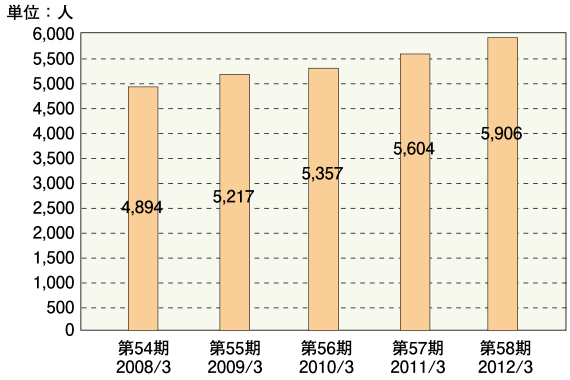
積立有給休暇制度
法律では2年で時効消滅する年次有給休暇を80日まで積み立てることができる制度です。育児・介護・看護及び不妊治療のために利用可能です。

ならし保育制度
保育所に入所することになった子どもが保育所に慣れるまで、最大1カ月まで取得できる休暇制度です。

従業員数の推移

グローバルで活動するアシックスグループの従業員数推移です。2012年3月現在、国内従業員3,593人、海外従業員2,313人です。

従業員数推移



カラダとココロの健康づくり

アシックスヘルスアッププラン（AHP）

2010年２月から定期的に開催してきたウオークラリー※をベースに、継続した年間健康イベントを考え、2011年度から「アシックスヘルスアッププラン」を開始しました。自らが健康を意識し、イベントを通して自発的な健康行動を実践できるようにすることを目標にしています。

また、イベントを通した健康推進室との交流により、相談しやすい環境作りや、効果的な保健指導を実施するための情報収集にもつながっています。中でもウオークラリーでは、常連参加者が増えたほか、エントリーはしていないが独自に実践しているという社員も確認できました。このほか、身近な社員同士の参加により、部署内の共通話題としてコミュニケーションが活発になるなど、思わぬ効果もありました。

今後は、関連会社や各イベントの参加率向上、新規参加者数を増やすなど利用率向上を考えながら、内容の充実を図ります。

※ウオークラリー
定まった期間中に歩数を競い、運動習慣を身に付けるとともに、健康管理をするイベント。

アシックスヘルスアッププラン参加賞

全員健康面談

生活習慣記録（食事・飲酒・運動・喫煙・睡眠・ストレス・仕事）を基に本人と話し合って健康目標を立て、１年後にその達成状況を確認する試みを全員健康相談を通じて実施しています。2011年度は達成状況を確認する最初の年でしたが、「去年ここで３kg痩せると宣言したので、頑張ってダイエットしました」という成功体験者もおり、成功をともに喜び、ステップアップした目標を立てられるケースもありました。

一方で、一度立てた健康目標を継続できず健康状態が悪化しているケースもありましたが、一般的な食事・運動指導になりがちだったこれまでの健康面談にはなかった「今年は違う方法を考えて頑張ります」などの声を聞くことができました。

対話による自発的な目標設定で、個人の個性に合わせた保健指導に近づけることができました。

今後も継続して従業員一人ひとりの生活に寄り添い、より充実した保健活動を目指します。

AEDを使った市民救命士講習会

ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の公共施設などでの設置が進み、除細動を受けた人の社会復帰率が上がったと言われます。本社などで実施していた市民救命士講習を全社に広げ、社会にも貢献できる社員を育成していきます。

TOPICS

当社の取り組みが評価されています

2012年３月、働きやすい職場作りの一例として、当社の取り組みが神戸新聞に掲載されました。

アシックスは、2006年、男女ともに働きやすい職場作りに向けて、積極的な取り組みを行っている事業所に贈られる「こうべ男女いきいき事業所表彰」を受賞しています。

仕事と家庭の

株式会社アシックス

労働時間、健康を徹底管理

育児支援制度、家族行事を導入

2012年3月12日付神戸新聞

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第3版）」標準開示対照表

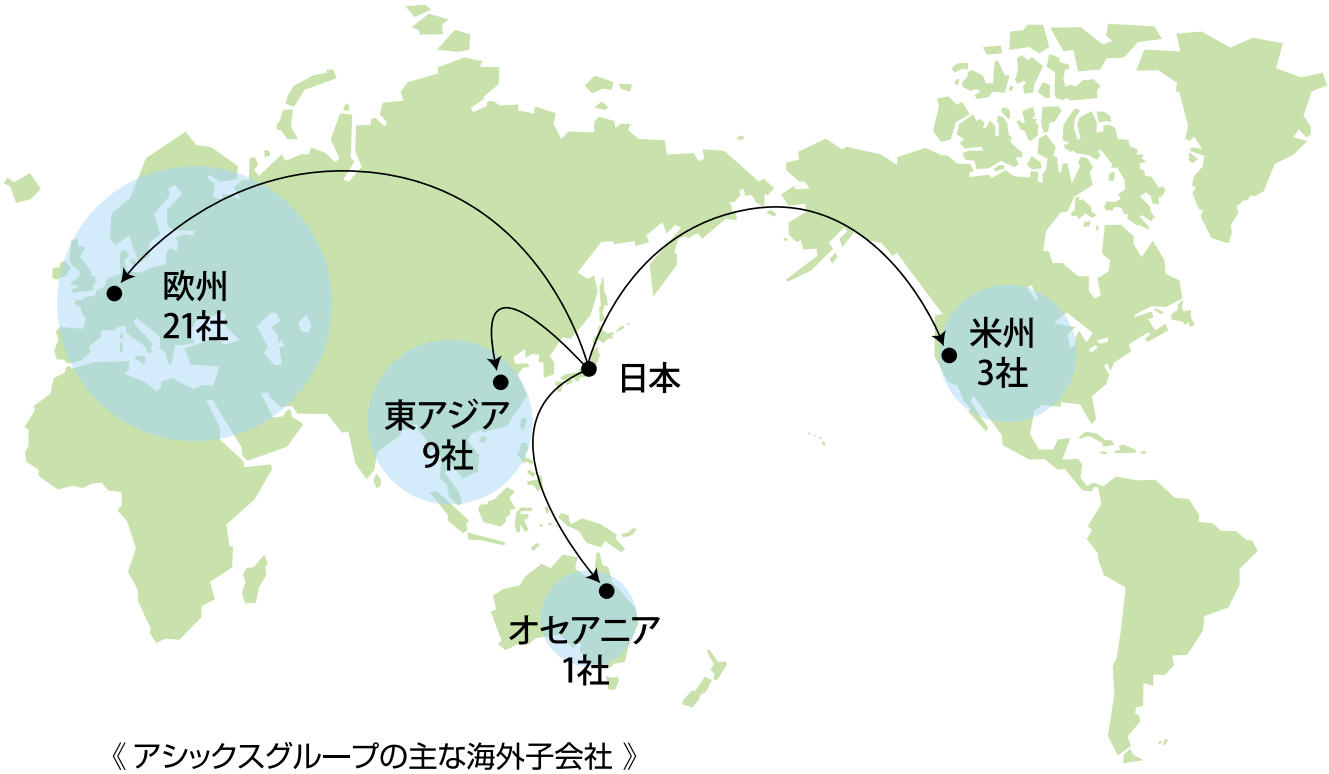
ＧＲＩ「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006（第３版）」標準開示に従い、掲載した項目について、「ASICS CSR REPORT 2012」の該当ページを記載しています。

報告事項			関連ページ
1	1.1	組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者（CEO、会長またはそれに相当する上級幹部）の声明	P3~P4
	1.2	主要な影響、リスクおよび機会の説明	P3~P4, P8, P14
2	2.1	組織の名称	P2
	2.2	主要なブランド、製品およびサービス	P2
	2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	P2
	2.4	組織の本社所在地	P2
	2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	P2, 34
	2.6	所有形態の性質および法的形式	P2
	2.7	参入市場（地理的内訳、参入セクター、顧客／受益者の種類を含む）	P2
	2.8	報告組織の規模	P2
	2.9	規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	
	2.10	報告期間中の受賞歴	P11
3	3.1	提供する情報の報告期間（会計年度、暦年など）	P2
	3.2	前回の報告書発行日（該当する場合）	P2
	3.3	報告サイクル（年次、半年ごとなど）	P2
	3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	裏表紙
	3.5	報告書の内容を確定するためのプロセス	P2, P8
	3.6	報告書のバウンダリー（国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー（供給者）など）	P2
	3.7	報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項	
	3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび／または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	
	3.9	報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	P16
	3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由（合併／買収、基本となる年／期間、事業の性質、測定方法の変更など）	
	3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	
	3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す表	P33
	3.13	報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する。	P12, P14, P22

報告事項			関連ページ
4	4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造（ガバナンスの構造）	P27
	4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す（兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す）	P27
	4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数	「有価証券報告書」該当ページ参照
	4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	P27
	4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬（退任の取り決めを含む）と組織のパフォーマンス（社会的および環境的パフォーマンスを含む）との関係	「有価証券報告書」該当ページ参照
	4.6	最高統治機関が利益相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	P27
	4.7	経済的、環境的、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適性および専門性を決定するためのプロセス	P27
	4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション（使命）およびバリュー（価値）についての声明、行動規範および原則	P1, P8, P14, P29
	4.9	組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	P18, P27
	4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	P27
	4.11	組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	P28~P29
	4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	P8, P11, P17, P22, P24
	4.13	組織の（企業団体などの）団体および／または国内外の提言機関における会員資格	P17, P22, P24
	4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	P8
	4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	P8
	4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	P24~P26, P32
	4.17	その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要なテーマおよび懸案事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	P10, P24~P26, P32
5	5	経済	P2
		環境	P5~P6, P13~P18
		労働慣行とディーセント・ワーク（公正な労働条件）	P31~P32
		人権	P21~P26, P29
		社会	P29
		製品責任	P9~P10, P12

1 戦略および分析
2 組織のプロフィール
3 報告要素
4 ガバナンス、コミットメントおよび参画
5 マネジメント、アプローチおよびパフォーマンス指標

アシックスグループの海外子会社



《 アシックスグループの主な海外子会社 》

アシックスアメリカコーポレーション
アシックスブラジル
アシックスヨーロッパB.V.
アシックスフランスS.A.S
アシックスドイチュランドGmbH
アシックスUKリミテッド
アシックスイタリアS.p.A.
アシックスオセアニアPTY.LTD
アシックスコリアコーポレーション
亞瑟士（中国）商貿有限公司
台湾亞瑟士股份有限公司
ホグロフスホールディングAB

担当役員から

2011年度からの中期経営計画「アシックス・グロース・プラン（AGP）2015」の次段階であるフェーズ2を策定しました。この中には「安全で高品質な製品の安定供給」という基本戦略が加わっています。お客様に安全で高品質の製品を安定的にお届けすることは企業の当然の務めです。ここに改めて明文化し、当社社員のみならずアシックス製品の生産に関わる全ての人々が同じ考え方を共有することが重要と考えております。

また、昨今の企業を取り巻く多くの社会・環境問題の解決には、一企業としてではなく、企業の枠を超えた連携が必要となってきています。サステナビリティ（持続的発展が可能な社会）の実現という共通の使命に向け、今後も社会の一員としての責務を果たしていきます。

取締役常務執行役員
グローバル法務・コンプライアンス統括部長
佐野　俊之

未来が変わる。日本が変える。

チャレンジ25

アシックスはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

本レポートの対象期間と対象範囲:
・期間:2011年度(平成23年度)　2011年4月1日から2012年3月31日まで
・組織:原則としてアシックスグループの取り組みを紹介

発行日:
・2012年(平成24年)6月22日

本レポートに関するお問い合わせ先
株式会社アシックス　CSR・サステナビリティ室
〒650-8555　神戸市中央区港島中町7丁目1番1
Tel.078-303-1244　Fax.078-303-2211

株式会社アシックス
©ASICS　Corporation　2012.6.JN.(TP)　Printed　in　Japan

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C014687